

授業科目名	国語科教育法 (2100264)		
時間割名	国語科教育法 (24114)		
時間割担当	正木友則		
実施期	前期	単位数	2 選択
曜日・時限	火・4		

授業の目標・概要

国語科教育法， で学んだことを踏まえ、学習指導要領の確実な理解に基づき、特に「読むこと」における、近代以降の文章を教材とした指導、古典を教材とした指導（「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」についての指導を含む）について、現状と課題の把握、言語活動を通じた指導の充実など指導の改善方を更に学ぶとともに、実際に指導計画の作成や、授業研究を行い、言語能力を育成するための指導と評価の在り方について考える。授業は、ペアやグループなどによる活動を重視する。

学習の到達目標

中・高等学校の国語科教員として授業を担当するために、特に「読むこと」の領域（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項を含む）の指導についての実践力を身に付ける。

授業方法・形式

それぞれの学習テーマに対して、テキストや補助資料を活用しながら授業を進めていく。
ペアやグループ学習、取り上げるテーマに関するディスカッション等を行う。

授業計画

- 第1回 「読むこと」（古典を教材）、伝統的な言語文化の学習指導(1)
古典の指導の現状と課題を把握する。学習指導要領の理解を深め、古典を学ぶ意義を理解する。
- 第2回 「読むこと」（古典を教材）、伝統的な言語文化の学習指導(2)
古典の指導と評価を改善するための方向性と、その具体的な方策について学ぶ。
- 第3回 「読むこと」（古典を教材）、伝統的な言語文化の学習指導(3)
古典の指導と評価の計画の作成について学び、実際に計画を作成する。
- 第4回 「読むこと」（古典を教材）、伝統的な言語文化の学習指導(4) 授業研究
古典の指導について、実際の授業を基に考える。（主に古文を素材とする）
- 第5回 「読むこと」（古典を教材）、伝統的な言語文化の学習指導(5) 授業研究
古典の指導について、実際の授業を基に考える。（主に漢文を素材とする）
- 第6回 「読むこと」（古典を教材）、伝統的な言語文化の学習指導(6)
古典の学習評価について、実際の授業を通して考える。
- 第7回 「読むこと」（近代以降の文章を教材）の学習指導(1)
近代以降の文章を読むことの指導の現状と課題を把握する。学習指導要領の理解を深める。
- 第8回 「読むこと」（近代以降の文章を教材）の学習指導(2)
指導と評価を改善するための方向性と、その具体的な方策について学ぶ。
- 第9回 「読むこと」（近代以降の文章を教材）の学習指導(3)
近代以降の文章を読むことの指導と評価の計画の作成について学び、実際に計画を作成する。
- 第10回 「読むこと」（近代以降の文章を教材）の学習指導(4) 授業研究
近代以降の文章を読むことの指導について、実際の授業を基に考える。
- 第11回 「読むこと」（近代以降の文章を教材）の学習指導(5) 授業研究
近代以降の文章を読むことの指導について、実際の授業を基に考える。
- 第12回 「読むこと」（近代以降の文章を教材）の学習指導(6)
近代以降の文章を読むことの学習評価について、実際の授業を通して考える。
- 第13回 「読むこと」の授業デザイン
育成すべき能力を確実に身に付けさせるための「読むこと」の授業デザインについて考える。
- 第14回 タイムリーな課題
各回で取り上げることが出来なかった話題で、タイムリーなものや、喫緊の課題などを学ぶ。
- 第15回 授業の総括として、これまで身に付けたことについて振り返る。

成績評価の基準

課題レポートにおいて、課題探究の深さ、緻密さ、斬新さなどを評価する（30％）。
学期末においては総合的な理解を確認する（40％）。

準備学習・復習及び授

授業時に、次回以降の学習テーマについて、予習する内容を具体的に伝える。必要に応じて提出も課する。復習についても同様。

履修上のアドバイス

- ・受講上の基本的なマナーを守ること
- ・対話的に授業を進めるため、授業への積極的な参加を求める。
- ・授業時間内での理解を深めるために、予習と復習を欠かさないこと。

教材・教科書

特になし 必要に応じて資料を配布する

参考書

特になし 必要に応じて授業で紹介する